

1 アンケート結果について

令和7年度の学校評価保護者アンケート結果では、14項目中9項目において、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定的評価が95%以上となりました。（前年度比+2項目）特に全体的な傾向として、保護者の方々が、「人を大切にする姿勢」「家庭との連携」「いじめへの取組」において、令和7年度はより強い肯定へと感じていることが伺えます。

※（ ）内の数字は、肯定的評価のパーセントになります

【カテゴリー】授業について		
質問番号	保護者	No2(97.5) 教職員は、子どもたちが楽しく学習できるように努めている。
		No3(94.1) 教職員は、子どもたちの基礎学力が身につくように努めている。
	児童	No5(94.5) めあてや学習課題を意識して授業に参加していますか。
		No12(94.2) 授業はわかりやすいですか。
	職員	No4(100) 目標に迫るための手立てが明確になるよう単元構成を工夫している。
		No5(95.2) 学習中にICTを活用したわかりやすい授業を実践している。
考察	授業について、保護者・児童・職員において肯定的評価が9割を超えていました。これは、「授業を工夫している（教職員）」→「授業がわかりやすい（児童）」→「学習が楽しい（保護者）」が、同じ方向を向いており、授業改善が“実感”として届いている傾向が見られます。	

【カテゴリー】対話・協働的な学びについて		
質問番号	保護者	No13(92.6)子どもたちは、問題を解決するために、仲間と協力（協働）して生活している。
	児童	No14(95.3)授業中に、グループの友だちと話し合ったり、伝え合ったりすることがありますか。
	職員	No5 (100) 学習中に伝え合い、学び合いなど、対話的な学びを取り入れている。
考察	協働的な学びの推進については、酒井根中学校区4校（サカスク）地区の重点項目の一つでもあります。数値上、“話し合い活動がある”だけでなく、児童の肯定が95%を超えているため、教室の中で対話が日常化している傾向が強いことがわかります。	

【カテゴリー】粘り強さ（やりぬく力）		
質問番号	保護者	No12(90.7)子どもたちは、学習や生活面において、最後まであきらめずに課題や問題に取り組んでいる。
	児童	No1(93.9)何事もやりぬくことを意識して行動をしていますか。
	職員	No1(96.1)目標に向かい友達と共にやりぬく子を意識して、学習指導、生徒指導を行っている。
考察	本校の目指す児童像「目標に向かい 友達と共に やりぬく子」にもあるように、学校の重点（やりぬく力）が、教職員の指導意識→児童の自己評価→保護者の認知までつながっています。保護者評価が児童及び教職員と比べて若干低いのは、従来の学校行事のあり方（運動会の縮減や持久走大会の廃止、部活動の廃止など）が見直されたことにより、子どもたちの頑張りが表面上伝わりにくくなっているためと考えられます。	

【カテゴリー】安心感（心理的安全性・いじめの未然防止）		
質問番号	保護者	No8(96.5)学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。
		No5(98.5)教職員は、保護者からの連絡や相談に、適切に対処している。
	児童	No13(91.6)楽しく、安心して学校生活を送ることができていますか。
職員	No14(100)いじめを許さないという毅然とした態度と、子どもの心に寄り添う姿勢を常に持っている。	
考察	特に、保護者肯定評価が前年度比（+5%）と最も伸びた分野です。質問5「教職員は、保護者からの連絡や相談に、適切に対処している。」では、98.5%の評価をいただいていることから、教職員一人一人が細やかな対応に努めていることが、数値に表れていると考えられます。	

【カテゴリー】相談支援体制について		
質問 番号	保護者	No5(98.5)教職員は、保護者からの連絡や相談に、適切に対処している。
	児童	No11(82.9)悩みごとを相談できる先生はいますか。
	職員	No14(93.8)保護者からの教育相談を積極的に受けるように意識して取り組んでいる。
考察	大人側（保護者・教職員）は“相談体制は機能している”と見ている一方で、児童側は「相談できる先生がいる」が90%に届いていません。これは、体制の有無というより「子どもが相談しやすい導線（誰に・いつ・どこで・どうやって）」の明確さ／安心感が課題である可能性があります。本校では、校内相談BOXや児童との面談週間を設けていますが、次年度はそれらを子どもたちにも「見える化」してまいります。	

【カテゴリー】情報発信について		
質問 番号	保護者	No10(91.6)学校は、保護者に教育活動についてわかりやすく情報発信を行っている。
	児童	
	職員	No18(80)学校だより、学校HP等で児童の様子を積極的にお知らせしている。
考察	保護者の肯定的評価は90%を超えていますが、教職員側は80%にとどまっています。これは「発信している／していない」というより、伝え方・頻度・分かりやすさで評価が動く項目です。	

【カテゴリー】ICTの利活用について		
質問 番号	保護者	
	児童	No16(84.7)課題を解決するために、本やコンピュータなどを活用していますか。
	職員	No7(95.2)学習中にICTを活用したわかりやすい授業を実践している。
考察	教職員側は「ICTを使って授業をわかりやすくしている」意識が高い一方、児童側は「自分が活用して課題解決している」実感が相対的に低いことが数値上から考えられます。令和8年度より、柏市GIGAスクール構想が2ndフェーズに以降します。“教職員が使うICT”→“子どもが使って考えるICT”への移行が伸びしろになり得ます。	

2 学校関係者評価について

【令和8年2月24日（火）学校運営協議会より】

○すべての項目において肯定的評価が90%以上となっている。校長先生の学校経営ビジョンのもと、教職員の方々の努力の成果が結果に反映されている。

○児童アンケートNo11「悩みごとを相談できる先生はいますか。」において、肯定的評価が82%となっている。児童とのコミュニケーションを密にとり、言葉を交わす機会を多くもつことが児童の心理的安全性を高めることにつながると思う。

○下校パトロールなど、地域との協働活動の成果が数値上に反映されていることがわかる。

【令和8年2月27日（木）東っ子お助け隊打ち合わせより】

○6年生の送る会を見ていると発表内容の随所に工夫が見られた。若年層教員が増えているとのことだが、いい影響を与えているのではないか。

○自由記述にもあるように授業参観など学校に来校する機会が多いことが保護者の受け皿になっていると地区でも話を聞いている。

○ICTの利活用については今後の大きな課題。東っ子お助け隊のボランティアを活用して生成AIの授業を取り入れるなど、外部人材を活用するとより良い教育につながると思う。

○若い先生が多いことが学校の活気に繋がり、そのことがアンケート結果に表れている。